

松尾九条の会

二ニュース

NO. 31

2023. 1. 15. 発行

発行責任者

田中康晴

☎075-391-0852

新年号

(部内資料)

新しい年を迎えて

新しい年を迎えた。この年、とんでもない年になりそうだ。イヤ、とんでもない歴史の始まりになりそうだ。敵基地先制攻撃の容認、軍事費の2倍化にみられる9条のさらなる空洞化がすすむ。専守防衛の「撃たぬ国」が、安倍の安保法制で「撃てる国」に、そして今回の安保3原則で「撃つ国」になる。とんでもない。歴史を知らない、学ぼうとしない。イヤ逆に改竄(かいざん)しようとしている。

81年前あの戦争は敵基地真珠湾、英領マレーへの先制攻撃から始まった。結果全国民300万人の犠牲のもとに日本は日本国憲法9条を書いた。

もう一つとんでもない事が始まっている。エネルギー政策の原発への回帰である。これを許してはならない。老朽原発のさらなる寿命の延長に止まらず、新規建設まで。



(世話人代表 田中康晴)

11年前のあの教訓から培われてきた再生エネルギー政策、努力をかなぐり捨て、再び我々をあの恐怖にさらし、又、日本が「撃つ国」となったとき敵のターゲットとなる事間違いなし。とんでもない。

さて、どうするか。コロナ禍とは言え反対の声を上げることは出来る。まず4月から全国一斉地方選挙がある。岸田政権の支持率が下る一方の今、さらに追い打ちをかけこの選挙に勝とう。自民・公明・維新の票をとんでもない数字に追い落とすことから始めよう。

◆2023年年初にあたり松尾九条の会各人より

●戦争だめ、平和でいいこう争いは、もう二度といたくない、誰しもの願いです。

平和憲法9条を政府は無視して戦争の道へ進もうとしている。私達の命とくらしを無視して、専守防衛から、攻撃型の防衛にして国民の税金を使い、大軍拡、GDP 1%↓2%のたくらみです。私達は、命・くらし要望してみんなと手を取りあつて戦争させない平和な社会をつくる。戦争の道反対！

(松尾学区・男)

●憲法9条を守らなければならぬ。この理由として一つ考えられること

先日、赤旗の近畿版に載っていたのですが、「あたらしい憲法のはなし」

1947年8月2日文部省発行、新制中学校1年用教科書に「いまやつと戦争が終りました。二度とこんなおそろしい、かなしい思いをしたくないと思いませんか。こんな戦争をして日本の国はどんな利益があつたでしょう。何もありません。ただ、おそろしい、かなしいことがたくさん、おこっただけではありません。戦争は人間

をほろぼすことです。世の中のよいものをこわすことです。」と、書かれていました。しかし、1951年から教科書に使われなくなったのです。これはいつたいうことでしょうか。

ぜったい戦争はしてはなりません。そのために、憲法9条を守り、今の自民党が出てきていて、憲法9条を改悪する案はゆるしてはなりません。

(山田喜彦)

●戦後77年 今、戦争元年として思う

私は昭和27年生まれの70歳です。親は学徒動員で戦場を経験した最後の世代でした。生きていけば99歳。同世代の人は何人生き残っているでしょう。今はもう叶いませんが、わずかばかりでも直接にその体験談を聞けた世代です。戦後の生きて帰った人たちの生き方、考え方は様々です。

父は満州帰ります。一度だけ戦友会に行ったとのこと。その時、「チャンコロ※を何人殺した」「レイプした」と自慢話が始まり、二度とその会には行かなかったと聞きまし。戦争の心の傷でPTSDになつたまま亡くなった多くの人たちがいたことが近年

わかつてきました。一方で自慢話に花を咲かせた人たちの心の中はどんなものだったのか。

父は聖戦と信じて戦争に行つた人間です。満州国から帰国した民間人は苦勞に苦勞された聞きませんが、父は終戦1年経たず帰国。私は一度職場の先輩にそのことを話したことがありました。

「民間人をみんな見捨てて帰つて来たのだよ」

という先輩の言葉にゾツとしました。軍部の人間が一番早く逃げたことは知っていましたが、それと父がつながっていませんでした。

母の兄(伯父)は第一次の船に乗りサイパンへ送られました。アメリカの攻撃を受けずサイパンへ着いた唯一の船だったそうです。他の船はことごとく潜水艦の攻撃を受け沈み、中には泳いでサイパンへたどり着いた人もいたとか。伯父はすでに「マルクス」を学んでいた人です。この戦争は間違っていると知っていたの参戦でした。サイパンは玉砕しています。壮絶なアメリカの攻撃の中、「こんな戦争で死んでたまるか」の一念で、生存率数%の中の一人として生きて帰りました。アメリカの捕虜となり、二年後

帰国。奇跡的なサイパンでのことを一冊の本にまとめています。

父は満州の事を一度も私や孫たちに語りませんでした。八月十五日に話してほしいと何度も要求したのに、です。当然、彼は人を殺しているでしょう。戦後、マルクスを学んだはずの父は、戦中の人間として次世代へ歴史の事実を遺すことは最期までありませんでした。

今、父そして母に対して思うのは、あの時なぜ伝え言わなかったのか。戦中の人間として子に伝えなければならぬことがもつとあったのでは、ということ。私自身は、戦争の話を聞いてきた世代として、子育ての中で我が子に伝えてきたし、子どもを守るために行動もしてきたと思っています。行動しながら、「なぜ戦後、あなたたち父母が世の中を変えてくれなかったのか」と何度悔しく思ったか。レッドパージのことを「オレはあの時頑張ったからもう良い」と話す父に「今変えられなければ、無意味だ」と、その甘さに怒りすら覚えました。

そして日本は今、「敵基地攻撃」などと中国や北朝鮮へ向けて宣戦布告をしてしま

いました。憲法も九条も投げ捨てて再び国民を戦争へ巻き込むことを始めました。「沈黙は これもまた加害なり」

戦争に中立はありません。するか、しないか、の二択です。多くの日本人が「まさか」と思っているかもしれませんが、しかしいつ攻撃されてもおかしくない状況です。なにせ日本は宣戦布告をしたのですから。

私にとって「敵基地」にいる「敵」は、岸田文雄氏とその取り巻きたちなのです。国民の敵、平和の敵、憲法の敵、そして地球の敵です。

※差別用語ですが、あえてそのまま書かせていただきます。当時彼らと同じ人間として見ていなかったからこそ殺すことができた。その歴史的事実としてここに残したいと思います。

(阿部 泉)

●新年にあたっての決意

昨年の夏以降、岸田首相は被爆地広島出身でリベラルの仮面を脱ぎ捨て、福祉切り捨て、原発の新設、改憲推進、安保3文書改定に象徴される戦争する国づくりを推進してきた。

安倍元首相すら踏み込めなかった政策を野党の分断や

マスコミも利用しながら、実現しようとしている。

私たちの踏ん張り時である。知恵と力を寄せ合い、岸田政権を退陣させ、命と暮らしを大切に作る社会を作っていくましよう。

(K・I)

●ブレイキとしての文学

▼原稿依頼をいただいたいて、今年は何を書けばいいやらと思つて過去のものを読み返してみた。困った。ほとんど同じような内容ばかりなのだ。これはつまり、世の中が少しも良い方向へ向かっていないということだ。同時に私自身も一つも進歩していないということもある。小さな努力はしてきたつもりだ。しかしそんなちっぽけなことなど本端微塵に吹き飛ばすほどの政府の強引さだった。特に年の後半の岸田首相はまるでブレイキが壊れた車のような暴走ぶりだった。一般市民が何を訴えても、トレードマークだった聴く耳を耳栓で蓋をしたかのように無視を続けた。

▼そんなとき目にした新聞記事があった。アメリカの心理学者ステイブン・ピンカーは「暴力の人間史」で次のように示したという。人類が暴力による死を格段に減じ

たのは、シェークスピアなどで始まる17～18世紀の文学の時代だと。人は文学を通して他者の心を知った。それが共感の拡大と人道主義につながった。

▼そうか、岸田首相の踏み続けるアクセルを緩めるのはブレイキとしての文学だ。軍拡競争に走り、壊れかけの原発を再稼働するなど無茶なことばかり言っていないで、まずはハムレットでもお読みになればいかがだろう。人道主義の、外交上手(ご自身曰く)の岸田さんに戻ってくれることを願う。ハムレットの有名な台詞—To be, or not to be, that is the question—英語の得意な岸田さん、さてどう訳しますか？

●防衛費5年間で43兆円。実は60兆円にも…

2023年度からの5年間で政府は防衛費(軍事費)を43兆円にも上げようとしている。許せない。この物価高で大変な時に何を言い出すのだらう。まさにアメリカ言いなりのある。でも、43兆円というとピンとこないかもしれない。そこで、1億2千万国民一人当たりになれば何と35万円である。赤ちゃ

んからお年寄りまで1年だと一人7万円持つていかれることになる。昨年大晦日の中日・東京新聞には、新規契約の高額装備品のローンで165兆円膨れ上がり、60兆円にもなるとの記事。一人あたり49万円。日本が防衛費を上げれば、対する国も上げ日本もまた上げる…：切りがない。だったらもつと話し合いを密に行い、そんなにお金を使わなくてもよくすればよっぽど良いのではと思う。実は、私は駅前のマイク宣伝でこのストーリーで訴えを行っている。

(T・T)

◆事務局ニュース

昨年11月久々の署名行動・親睦会を予定していましたが、コロナ感染拡大を憂慮して中止としました。年が明けても第8波の真只中。困ったものです。

今年は、軍拡ストップのための大切な一年となります。四月には全国一斉地方選挙として、京都府会・京都市会の各選挙があります。軍拡・増税ではなく、憲法を守りくらしや福祉応援の候補者に投票したいですね。

今年もよろしく願います。(事務局)